



ねんりんピック彩の国さいたま2026出場

11月7日(土)から10日(火)にかけて、埼玉県内で開催される「第38回全国健康福祉祭埼玉大会ねんりんピック彩の国さいたま2026」に、市内から7人の選手が出場します。

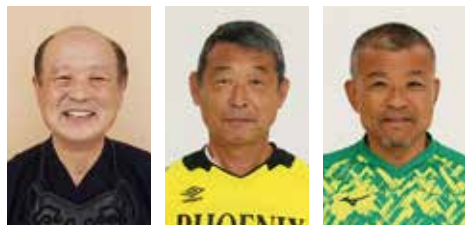
ペタンク



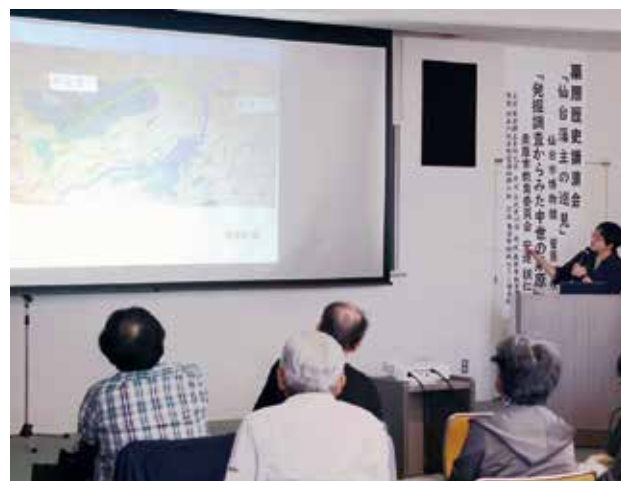
伊藤 一彦さん (志波姫南) 佐藤 幸雄さん (志波姫南) 佐々木 かよ子さん (志波姫橋本) 千葉 やす子さん (志波姫南)

剣道

サッカー



鈴木 昌幸さん (若柳下在) 佐藤 和弘さん (築館西町) 三橋 秀悦さん (築館佐野)



栗原の歴史を知る

10月8日(木)、栗原文化会館で「栗原歴史講演会」が開催されました。

この催しは、栗原の歴史を知ることで、地域に誇りを持ってもらおうと栗原市郷土史研究会が主催したものです。

講演では、仙台市博物館の職員が、江戸時代の仙台藩主が狩りのため栗原を訪れたときに和歌を詠み、領民と交流したことなどを解説した他、市文化財保護課の職員が遺跡を紹介し、参加した約70人は、地域の歴史に耳を傾けました。



千田さんが射撃で全国準優勝

10月3日(土)から4日(日)にかけて、岡山県岡山市の岡山県クレ射撃場で開催された「第2回安全狩猟射撃全国大会」の個人競技レディースの部で、千田寿美子さん(金成藤渡戸)が準優勝に輝きました。

千田さんは「全国の猟友会員が集まり技術を競う大会は緊張しました。初めて撃つ射撃会場でしたが、練習の成果を出せたと思います。準優勝という結果には悔しさもありますが、入賞できてうれしいです」と語り、受賞を喜びました。

コケの魅力を発信

10月3日(土)、栗駒山麓ジオパークビジターセンターで「栗原苔フェスティバル2026」が開催されました。

この催しは、コケを地域活性化につなげようと実行委員会が主催し、今回で8回目となります。

会場を訪れた約千人は、コケ生産者などが展示販売する園芸作品を買い求めた他、ガラス容器にコケを植えて小さな自然の風景を楽しむテラリウム作りを体験するなど、コケの魅力を感じながら、イベントを楽しんでいました。

長寿100歳 おめでとうございます

大正、昭和、平成、令和。
激動の4つの時代を駆け抜け、思いを紡いで1世紀。
100歳の誕生日を迎えた5人を紹介します。



高橋 きみ子さん (若柳三田島)

現在は、庭や畑の草取りが日課で収穫した野菜を家族と一緒に食べることが日々の楽しみです。長寿の秘訣は、自分のことは自分ですと語りました。



千葉 四郎さん (若柳福岡)

退職後は通学路の見守りや、民生委員として地域に貢献しました。昔の出来事をよく覚えており、周りの人に話すと、驚かれるほどの記憶力の持ち主です。



菅原 ちやさん (栗駒栗原根岸)

結婚後は、専業主婦として家族を支えました。若い頃から、健康なことが自慢です。現在は、週2回のデイサービスを楽しみに生活しています。



鈴木 ちよみさん (栗駒四日町)

若い頃から、手先が器用で、編み物や裁縫が得意な鈴木さん。気さくな性格で、長寿の秘訣は、好き嫌いをなく、ご飯を食べることと語られました。



遊佐 けい子さん (瀬峰瀬嶺)

女学校卒業後、海軍工廠で航空機の設計に携わり、戦後は栗原電鉄に勤め、子どもを育て上げました。現在は、塗り絵を楽しみ、穏やかに過ごしています。



少年力士はっけよい

10月4日(日)、栗原市相撲場で「第2回みちのく栗原少年相撲大会」が開催されました。

この大会は、市出身の時疾風秀喜閣に続く力士を育てることを目的に、時疾風栗原市後援会と栗原市相撲連盟が主催したものです。

大会では、県内から集まった小・中学生44人が土俵上で熱戦を繰り広げ、一瞬の勝機を逃さない真剣な取組が続きました。また、未来の力士たちのたくましい姿に、駆けつけた保護者たちの応援にも熱が入り、大きな声援が送られていました。



力強い太鼓が鳴り響く

10月4日(日)、栗原文化会館で「みちのく太鼓まつり〜結〜アンコール公演」が開催されました。

この祭りは、若い世代に太鼓の魅力を感じてもらおうと、太鼓奏者の有志で作る実行委員会が主催したものです。

公演では、市内を拠点に活動する5つの太鼓団体などが、素早いばちさばきで会場に響き渡る迫力ある演奏を披露すると、観客から大きな拍手が送られ、奏者と観客の一体感が会場に広がりました。